

富士市SDGsの課題と取り組み



16 平和と公正を
すべての人に



目標 16

公正、平和かつ
包摂的な社会を推進する

富士市の課題

富士市には、生まれた国も話す言葉も違う外国人市民の皆さんが、59カ国、6,000人以上暮らしています。この人たちの多くが、日本人と話す時には、日本語を使っています。一方で、日本語には、ひらがな、かたかな、漢字など、いろいろな種類の文字があるので、「読むこと」「書くこと」は、苦手な人もたくさんいます。でも、市役所からのお知らせや学校からのお便りなど、市民の皆さんに届く書類は、受け取る人が、外国人でも日本人でも日本語で書いてあるのが普通です。ですから、お知らせが届いても、そこに何が書いてあるのか、わからなくて困ってしまう人たちもいます。例えば、「コロナウイルスのワクチンを打てますから、申し込んでください。」という通知が届いても、日本語が読めない人たちには、なんのお知らせかわからないので、ワクチンを打ちたくても打てない人が出てしまうかもしれません。同じ富士市で暮らす市民なのに、日本語がわかるか、わからないかで、こんなふうに、「行政サービス」が受けられる人と受けられない人に分かれてしまい、元気で安心して暮らす権利を奪われることは、あってはいけないことですので、それを防げるよう考えていかなければなりません。



日本語教室の様子



やさしい日本語

富士市の取り組み

富士市では、日本語が苦手な外国人市民の皆さんが、私たち日本人と同じように元気で安心して暮らせるよう、いくつかの工夫をしています。その一つとして、「母語」と呼ばれるその人の国の言葉や、漢字にふりがなをふったり難しい言葉をわかりやすい言葉に置き換えたりした「やさしい日本語」を使って、富士市のウェブサイトの外国語のページや、外国人市民の皆さんのお手伝いをしている「国際交流ラウンジFILS」のFacebookで、外国籍の皆さんにお知らせをしています。また、「国際交流ラウンジFILS」や市役所の外国人相談窓口では、その人の「母語」や「やさしい日本語」で、書類の説明もしています。二つ目として、「やさしい日本語」を、たくさん日本人の皆さんにも覚えてもらい、外国人市民の皆さんとの会話に使ってもらえるよう、「やさしい日本語」の教室を開いたり、「やさしい日本語」のしおりを作って配ったりしています。三つ目として、外国人市民の皆さんが、もっと自由に日本語で話したり、読んだり、書いたりできるようにするため、日本語の教室を開くなど、日本語を勉強する機会を提供しています。こうした工夫により、1人でも多くの外国人市民の皆さんが、私たち日本人と同じように元気で安心して暮らせる富士市にしたいと考えています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



静岡県立大学国際関係学部 教授

高畑 幸

専門は社会学で、日本で暮らす外国人をテーマに、30年ほど調査研究をしています。静岡県内で暮らすフィリピン人やブラジル人などの定住外国人を対象に、労働や、子どもたちの教育、地域社会での多文化共生に関する調査などを続けてきました。富士市では、2016年に策定された富士市多文化共生推進プランの策定懇話会、2022年に策定された第二次富士市多文化共生推進プランの策定懇話会に参加しました。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS